

F P まつもと通信

知って得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

ご挨拶

東日本大震災から12年経ちました。日本は世界で起こる大地震の約2割が起こるとい地震大国です。

地震が起こった時の避難経路や連絡方法などについて家族で話をしていますか？

春は卒業や進学、就職や転勤などで通学先や勤務地が変わる季節です。年度変わりのこの時期、家族で防災会議を開いてはいかがでしょうか？

また、卒業や進学はライフプランが変わる時でもあります。保険の内容を確認することも忘れないでください。



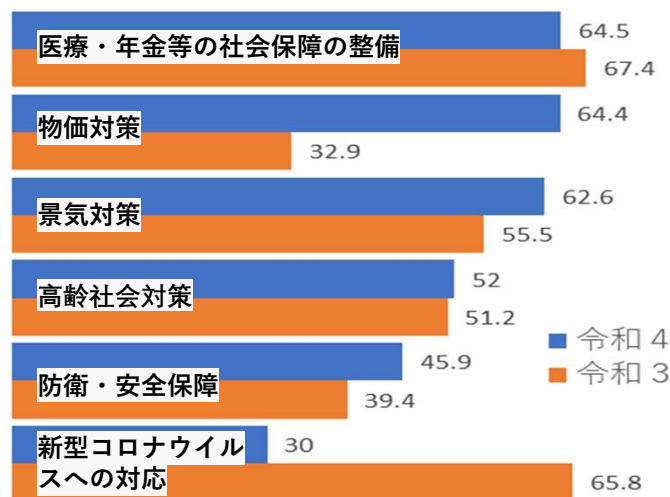
今月号のちょっと気になるお金のコラム

昨年からインフレ・物価高が話題になることが多くなりました。狂乱物価と言われた70年代、そして歴史上最悪のインフレとはどのようなものだったのでしょうか？

政府への要望は？

皆さんは日本政府にはどのようなことに力を入れて欲しいですか？ 政府に要望を出せるとしたらどのようなことですか？

下図は令和4年「国民生活に関する世論調査」の中の政府に対する要望に対する回答です（上位抜粋、単位％）。



前回（令和3年）と比べると新型コロナへの対応への関心が大きく下がった一方、物価対策が大きく上昇、また防衛・安全保障への関心も高くなっています。

もっとも多かったのは社会保障の整備でした。特に70歳以上では7割以上の方が要望しています。医療・介護・年金が自分事になる年齢で心配がないように若いうちから準備しておく必要があるのではないのでしょうか？



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

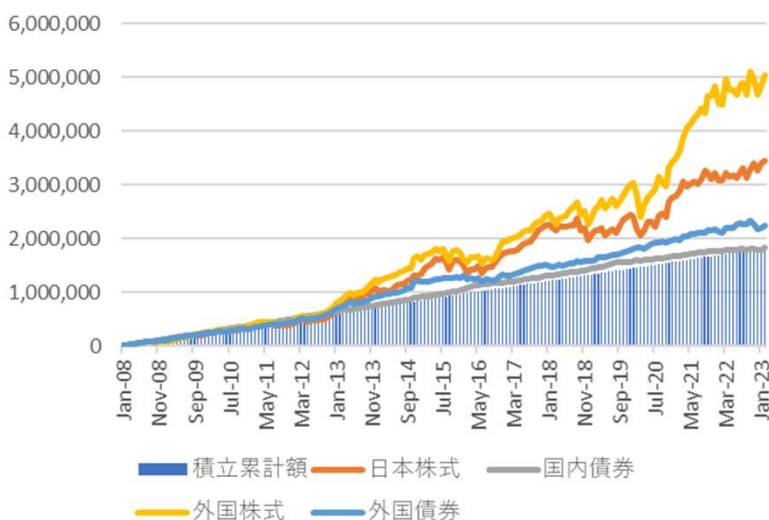
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Dec-22	Jan-23	Feb-23
積立累計額	1,800,000	1,810,000	1,820,000
日本株式	3,256,873	3,409,670	3,450,993
国内債券	1,790,978	1,795,690	1,824,865
外国株式	4,681,394	4,865,946	5,044,273
外国債券	2,165,656	2,200,087	2,235,807

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できません。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた積立投資の合計額①182万円（青棒）は2023年2月に②504万円（オレンジ線）と2.77倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

10年ちょうど（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下表のようになります。

最大	2,640,931	2012年1月 ~ 2021年12月
最小	1,747,373	2010年4月 ~ 2020年3月
平均	2,279,659	データ数：63

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

2月の米国株式市場は下落

	日経平均		NYダウ		ドル円
Dec-22	26,094.50	-6.70%	33,147.25	-4.17%	131.12
Jan-23	27,327.11	4.72%	34,086.04	2.83%	130.05
Feb-23	27,445.56	0.43%	32,656.70	-4.19%	136.22

2月の米国株式市場は下落しました。年初からインフレ懸念後退、利上げ観測後退、の見方により株式市場は上昇していましたが、2月に入ると雇用の大幅増加、消費者物価の上ぶれ、堅調な小売売上高、による高インフレ懸念により下落しました。

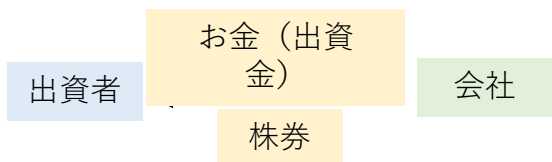
景気後退は今のところ回避できるのでは、という見方が大勢を占めているようです。ただし、米国ではクレジットカードの延滞率の上昇が見られるなど債務の返済負担増から消費に陰りがでる、さらに金融危機につながることもあり得ると想定しておいた方が良いでしょう。

もし仮にそのような危機により大きく値下がりした場合には増額などを検討する準備をしておきましょう。

株式市場は低迷を続けていますが再度値上がりすると考えてよいのでしょうか？

これを理解するためには株式（株式会社）の仕組みを理解する必要があります（経済動向やマーケットの予想ではありません）。

事業を始めるためにはお金が必要です。お金がなければ商品の仕入れ、事務所の賃借、雇用などができません。銀行などから借りる方法もありますが、出資を募る方法もあります。会社は出資者に出資をしてくれた証拠として株券を発行します。出資者はこの会社のオーナーになります。



1000万円の出資を受けて事業をスタートしたとします。出資者と会社の金庫は以下のような状態です。

出資者の金庫：1000万円分の株券
会社の金庫：現金1000万円

会社はこの1000万円を元手にビジネスを開始します。仮に500万円の経費を使って800万円の売上を上げることができたら会社のお金は300万円増えて1300万円になります。

仮にこの会社を第三者に譲渡する場合いくらで譲渡しますか？

会社の金庫には1300万円の現金があり、さらに来年以降も利益が見込めそうだとすると譲渡金額は以下のようなものではないでしょうか？

1300万円 + (将来見込めそうな利益額)

反対に500万円の経費を使って100万円しか売上を上げられなかったとすると会社に残っているお金は400万円減って600万円になります。元の出資額が1000万円だとしても1000万円がこの会社を買ってくれる人はいないのではないのでしょうか？

このように理解すると株式（株価）は企業が利益を上げることで上がっていくということがわかります。では企業は今後利益を上げていくのでしょうか？

調子が良い時期もあれば悪い時期もあります。また大きく利益を延ばす企業もあれば低迷を続ける企業もあります。しかしながら全体として長い目で見れば上場企業は企業活動を継続し利益を積み上げていくと考えて良いのではないのでしょうか？

こうしてみると、株式投資で資産を殖やすには、短期的な値動きを当てることができなくても、企業が利益を積み上げてくれるのを待つことができればよい、ということがわかりますね。

ちょっと気になるお金のコラム

昨年から「値上げラッシュ」とか「インフレ」というニュースを聞くことが多くなりました。食品の値上げは昨年2万品目以上、今年も7000品目以上の値上げがあります（予定含む）。

つい最近まで「デフレ」、「物価目標2%上昇」などといわれていたので戸惑いを感じる人もいるかもしれませんね。

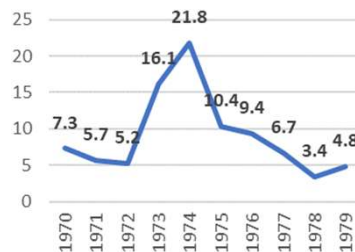
今月は過去の日本のインフレ、ギネス認定の最悪のインフレについて紹介します。

狂乱物価と言われた70年代

下図は1950年から2021年の日本の物価上昇率の推移です。



右図は1970年代を拡大したものです。年平均約9%、10年で物価は約2.3倍に、狂乱物価と呼ばれていました。



オイルショックによる石油の供給不足からの連想で、多くの人がトイレットペーパーの買い占めに走りまわりました（NHKアーカイブにその時の映像があるので興味がある方はご覧ください）。

検索→「NHKアーカイブス トイレットペーパー」

バブル崩壊後は最近に至るまで30年以上に渡り物価上昇は起きていませんでした。

人類史上最大のインフレ

人類史上最大のインフレは、1946年のハンガリーのインフレと言われています。最悪期の物価は約15時間で2倍になったそうです。

下記はこの時期のハンガリーの郵便料金の推移です。

1945年5月：1ペング

1945年7月：3ペング（2か月で3倍）

1946年1月：600ペング（6ヶ月で200倍）

1946年3月：2万ペング（2か月で33倍）

1946年5月：200万ペング（2か月で100倍）

1946年7月：40兆ペング（2か月で2000万倍）

（ペング＝当時のハンガリーの通貨）

小額紙幣では役に立たずハンガリー政府は高額紙幣を発行、この時に発行された、1垓（がい）ペング札が歴史上もっとも高額な紙幣と言われています（1垓は1のあとに「0」20個）。

第二次世界大戦後の物資不足の中、ハンガリー政府が大量に紙幣を刷ったことで貨幣価値が下がり物価高になったと言われています。

現代の日本でここまでのインフレを想定することはないと思いますがインフレが起こると貨幣価値が大きく下がります。老後資金など、長い期間をかけて準備するお金についてはインフレの影響も考慮した方法を検討することも大切かもしれませんね。